

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-132	12-143	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Facial dysmorphism across the fetal alcohol spectrum. 胎児アルコールスペクトルにおける顔面異形症		
執筆者		
Suttie M, Foroud T, Wetherill L, Jacobson JL, Molteno CD, Meintjes EM, Hoyme HE, Khaole N, Robinson LK, Riley EP, Jacobson SW, Hammond P.		
掲載誌		
Pediatrics. 2013 Mar;131(3):e779-88.		
キーワード		
胎児性アルコール症候群、胎児性アルコールスペクトラム、顔面異形症		
要 旨		
目的： 胎児性アルコール症候群 (FAS) における古典的な顔の特徴として眼瞼裂短縮、平坦な人中、薄い上口唇がある。われわれは小児科医が胎児性アルコールスペクトラム、特に古典的な顔の特徴を示さない非症候性かつ重曝露 (HE) の対象者の中から、顔面異形症を発見する一助となることを目的とした。		
方法： 募集に応じたケープタウンのカラードコミュニティの子供たち 192 人の中で、69 人は妊娠中にアルコールを控えたと報告した女性から生まれた。多面的な基準を用い残りの子供は FAS (N =22)、部分的 FAS (n=26)、非症候性 HE (N =75) のカテゴリに臨床的に分類された。我々は緻密に顔表面のモデリングを用い 3 次元の顔写真の符号分析を行うことで、臨床分類と顔の形状のみから導き出された分類の間の一致度を決定し、顔の違いを視覚化し、顔形と神経行動との予測関連について考察した。		
結果： 顔を用いた分類によって、何もない人と FAS のみ (顔:0.97-1.00; プロファイル:0.92)、部分的 FAS (顔:0.90; プロファイル:0.92) の間の識別について臨床カテゴリ上、有意な一致をみた。顔の特徴の視覚化によって胎児アルコールスペクトル全体を通じて顔面異形を描出でき、非症候性かつ重曝露 (HE) の対象者の半数において、顔特徴のグラフが顔の特徴を検出し、それは胎児期のアルコール曝露によらず一貫していた。このサブグループでは、古典的な顔の特徴をもたない非症候性の対象者に比べ、IQ と学習テストにおいて成績がよくなかった。		
結論： ヒートマップと顔特徴に対するモーフィングによる視覚化は、胎児性アルコールスペクトラム全体に対して顔面異形症を臨床家が検出する助けになるだろう。顔特徴のグラフには、認知機能障害を持っているが古典的な顔の特徴を示さない非症候性かつ重曝露の子供を同定する可能性があることが示された。		